
環境思想・教育研究

2016年 第9号

◆ 特集 人類の平和・地球との平和を改めて考える	
[趣意文]	1
平和的生存権の思想的探求——平和な国際ガバナンスのために	澤 佳成 3
Regional Governance	Arran GARE 9
The Fukushima Nuclear Power Plant Disaster as a Grave Environmental Problem	Masanori FUNAKURA 16
原爆 70 年に想う	山川 剛 21
環境と平和をめぐる洗脳に抗う	戸田 清 23
愛護倫理と動物福祉倫理の融合	佐藤衆介 26
「野生動物倫理」の素描——“保全倫理学”に向けて	関 陽子 31
日本の象牙取引推進政策に対する包圍網	坂元雅行 38
全地球生命を視野に入れた積極的平和論 ——『動物と戦争』(A.J. ノチェッラ二世/C. ソルター/J.K.C. ベントリー編) の紹介とともに	井上太一 43
動物虐待と現代社会	藤沢顕卯 47
◆ 小特集 I 環境教育思想の探究	
[趣意文]	49
環境教育思想研究への 2 つのアプローチ——アジアおよび世界との共同研究に向けて	降旗信一 50
概説ネイチャーライティング——「他者性の発見」と歴史的コンテクスト	野田研一 57
近代日本における環境教育思想の考察——「農民エコロジー運動」にふれながら	福井朗子 64
石田梅岩にみる江戸期の実践的環境思想——庶民教育の視点から	関 智子 73
◆ 小特集 II 「共生社会」論の現代的展開に向けて ——尾関周二『多元的共生社会が未来を開く』発刊を機縁にして	
[趣意文]	78
尾関周二著『多元的共生社会が未来を開く』に関するいくつかの感想	三浦永光 80
〈共生 (kyosei)〉の原理論を再考する	穴見慎一 83
A Reconsideration of <i>Kyosei</i> for Human Being: An Approach from the Perspective of “Common”	Motoi FUSE 90
『多元的共生社会が未来を開く』補論——モリスの「社会主義」を考える	尾関周二 98
◆ 環境思想・教育研究会 第 18 回 研究例会 報告	
現代日本の〈食〉とイデオロギーについて	河上睦子 108
〈食〉とイデオロギー	藤原辰史 116
◆ 一般研究論文	
Impacts of the Reform on Rubber Plantations of State Farms: The Case of Jinghong and Dongfeng Farms	Jun LAI / Ryoichi YAMAZAKI 120
◆ 研究ノート	
環境哲学と人間学の実践論的統一のために ——『環境哲学と人間学の架橋——現代社会における人間の解明』(上柿崇英・尾関周二編) に学ぶ	鈴木敏正 127
◆ 書評	
尾関周二『多元的共生社会が未来を開く』	渡辺憲正 133
藤原辰史『ナチスのキッチン——「食べること」の環境史』	大倉 茂 137
河上睦子『いま、なぜ食の思想か——豊食・飽食・崩食の時代』	浦田沙由理 140
牧野広義『環境倫理学の転換——自然中心主義から環境的正義へ』	穴見慎一 143
